



羅針盤

2016年度 第3号
都立豊多摩高等学校
進路図書部

2016（平成28）年10月26日発行

10月も下旬となりました。銀杏並木の黄葉はまだですが、ギンナンはずいぶん落ちていましたね。季節は着実にめぐっています。

いつもと変わらない秋の訪れのようにも見えますが、さて、みなさんにとってはどのような季節なのでしょう。

1年生は豊多摩高校で初めての学年の前半が終了し、後半に入りました。4月から9月まで、あるいは中間考査まで含めて、豊多摩高校での生活を振り返ってみませんか。

学校生活にも慣れて、生活のリズムが安定してきた人も多いと思います。でも、入学当初の新鮮な思いや、新しい生活に向かうワクワクするような感動が少しだけ薄れてはいませんか。

記念祭、体育祭、そして中間考査が終わったこの時期に、ちょっと立ち止まって、後半の学校生活をもう一度新鮮な思いを持って過ごすためにはどうすればいいのか考えてみてはどうでしょう。

2年生は、学年の前半を終えて後半に入ったというだけでなく、豊多摩高校での3年間の生活の中間点を過ぎて、高校生活の後半を迎えているのです。

11月には修学旅行もあり、今はそのための準備で忙しかったり、学年全体での旅行への期待でいっぱいかもしれませんね。

けれども、企画や運営の中心的な役割を担った記念祭や体育祭が終わり、中間考査も終了しました。あっという間に高校生活の中間点まで来てしまったというのが正直な感想ではないでしょうか。

3年生も学年の後半を迎え、卒業後の進路を見据えた、高校生活3年間の仕上げの時期になり、それぞれ精一杯頑張っていることと思います。

けれども、豊多摩高校での3年間は、その後の進路を決定するうえでとても大切な時間ですが、高校生活は卒業後の進路を、そしてその後の職業や将来の生き方を決めるための準備期間というだけではないはずです。

高校生活を振り返ったとき、充実した3年間だったと思えるようにするため、3年生の後半をどのように過ごしましょうか。

それぞれの学年にはそれぞれの「今」やるべきことがあり、自分自身にとっての「今」やるべきことがあると思います。けれども、高校生の「今」だけではなく、もっと長いスパンで自分のやるべきことを考えてみませんか。

世の中は大きく変わっています。

近代社会となって、成長、進歩、富の拡大だけに価値がおかれてきました。成長し、進歩し、経済的に豊かになることを追求し続けることで、多くのものを手に入れることができたと同時に、多くのものを失ってきたことも確かでしょう。そして、近代社会は行き詰まり、様々な矛盾や不合理が目につくようになりました。

もちろん、成長だけに価値を見出すのではなく、違う方向性を模索する人もたくさんいます。けれども、投資したコストを短期間で回収すること、コストパフォーマンスや効率の良さに価値をおく傾向はまだ根強くあります。

みなさんが社会人となるときは、どんな世の中になっていると思いますか。あるいは、どんな世の中にしていきたいと思っていますか。

「今」みなさんが高校生として向き合っていることは、「今」だけ意味を持つのではなく、みなさん自身のはるかな未来に向かって進んでいく方向性を見つけ出すことにつながってはいませんか。

さて、好きなことがあること、そしてそれを好きであり続けられること。夢中になれるものがあること。それはきっとあなたの人生を豊かなものにしてくれるということは今までも書きました。けれども、いつ夢中になれるものに出会えるのかはわからないのです。今、これといって好きなこともないのだけれどという人も多いと思います。焦ることはありません。感性を柔軟にして、受信するアンテナをさりげなく張っておくだけでいいのです。好きなこと、夢中になれるものは作為的に作るものではありません。いろいろなことを学んで、いろいろなことを経験していくうちに、気が付いたら、何かを好きになっていたり、夢中になっていたというほうが自然でしょう。特別な何かに出会うのではなく、「ふつう」であることもそれはそれで大切なことなのです。

あわただしく活動してきた自分をちょっと休めて、いろいろなことを、ゆっくりと、そして深く考えるのにいい季節になりました。

ミニコラム

先日、ノーベル文学賞が発表され、ミュージシャン・作詞家のボブ・ディランが受賞しました。

スウェーデン・アカデミーのサラ・ダニウス事務局長はディランについて、「彼が偉大な詩人ということに尽きる。」「彼の詩は歌われるだけでなく、読まれるべきものである。」と述べています。

文学者以外の受賞には驚きの声もあがりましたが、彼の音楽そのものがメッセージであり、人々がそれを素直に受け止めたということでしょう。

ロック・フォークソング界のカリスマ的存在であり、半世紀以上にわたるキャリアの間で多くの有名曲が生まれ、大学の授業で扱われることもありました。

世の中は少しずつ、しかし着実に変化しているのです。

